



## 2020年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年7月26日

上場会社名 エムケー精工株式会社  
 コード番号 5906 URL <https://www.mkseiko.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長  
 四半期報告書提出予定日 2019年8月2日  
 配当支払開始予定日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東  
 (氏名) 丸山 将一  
 (氏名) 酒向 邦明  
 TEL 026-272-0601

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年3月期第1四半期の連結業績(2019年3月21日～2019年6月20日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第1四半期	5,180	9.0	260	16.7	263	19.4	130	29.4
2019年3月期第1四半期	4,754	10.1	312	10.3	327	16.7	185	23.1

(注) 包括利益 2020年3月期第1四半期 119百万円 (35.8%) 2019年3月期第1四半期 87百万円 (5.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第1四半期	9.03	
2019年3月期第1四半期	12.79	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第1四半期	25,574	11,301	44.2	779.32
2019年3月期	24,789	11,297	45.6	779.08

(参考) 自己資本 2020年3月期第1四半期 11,301百万円 2019年3月期 11,297百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		0.00		8.00	8.00
2020年3月期					
2020年3月期(予想)		0.00		8.00	8.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年3月21日～2020年3月20日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	11,500	4.7	300	46.5	300	48.6	150	69.4	10.34
通期	23,500	0.4	750	30.5	700	40.2	350	54.2	24.14

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更         | : 無 |
| 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期1Q	15,595,050 株	2019年3月期	15,595,050 株
期末自己株式数	2020年3月期1Q	1,093,905 株	2019年3月期	1,093,905 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期1Q	14,501,145 株	2019年3月期1Q	14,501,145 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善により緩やかな回復基調が続く一方、景気の先行きは、通商問題による世界経済への影響や消費税増税に対する心理的影響など、不透明感が強まっている状況にあります。

当社グループ関連業界におきましては、オート機器の分野では、設備投資は堅調に推移しましたが、情報機器及び生活機器の分野では、市場の伸び悩みや激しい価格競争により厳しい経営環境が続いております。

こうした状況のもと当社グループは、今年度を初年度とする中期経営計画をスタートさせました。「美・食・住」を軸として事業本部を再編し、全国ネットワーク網及びグループ各社の全体最適化を図るとともに、継続的なコスト削減や当社のIT基盤、生産ライン、人材育成等、持続的成長に向けた経営基盤の整備と強化に取り組んでまいりました。また、「お客様に寄り添うメーカー」から「お客様にとって、なくてはならないメーカー」を目指した商品開発、モノづくりとサービスの融合による顧客価値を追求し、目標達成に向けた諸施策を推進しております。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は51億8千万円（前年同期比9.0%増）、営業利益は2億6千万円（前年同期比16.7%減）、経常利益は2億6千3百万円（前年同期比19.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億3千万円（前年同期比29.4%減）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

なお、当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分及び名称を変更しております。詳細につきましては「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(セグメント情報)」をご参照ください。

これに伴い、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

## (モビリティ&amp;サービス事業)

主力の門型洗車機は、SS(サービス・ステーション)向け洗車機が油外収益向上への期待感から積極的な設備投資により伸長したものの、カーディーラー向けは設備投資に一服感が見られ、やや伸び悩みました。一方、オイル機器では、エアコンプレッシャーが好調に推移しました。

情報機器では、官需向けは低調に推移しましたが、SS向けの情報看板が大幅に伸長し、一般店舗向け小型表示機及び工事用表示板は堅調に推移しました。

その結果、売上高は前年同期比5.3%増の37億8千2百万円となりました。

## (ライフ&amp;サポート事業)

主力製品の農家向け商材である低温貯蔵庫や一般家庭向け商材の電子レンジ置き台は、消費動向の冷え込みと同調し厳しい状況で推移しました。一方、前期に新発売した黒にんにくメーカー及び小型保冷米びつは、お客様のニーズを捉えて好調に推移し、また、前期に新規参入した食品加工機及び攪拌機は堅調に推移しました。

その結果、売上高は前年同期比33.7%増の10億1千4百万円となりました。

## (住設機器事業)

住設機器としては、主に木・アルミ複合断熱建具、反射板式消音装置、鋼製防火扉等を製造・販売しております。建設業界では、労働人口が大きく減少しており高齢化とともに人手不足が深刻化する中、工期遅延や引渡しの延長など大きな影響が出ています。当社も大型案件が売上延期となるなどの影響を受け、その結果、売上高は前年同期比7.6%減の3億2千万円となりました。

## (その他の事業)

保険代理業、不動産管理・賃貸業及び長野リンドンプラザホテルの運営に係るホテル業が主体となります。ホテル業は、価格競争による厳しい環境が続いておりますが、売上高は前年同期比10.2%増の6千3百万円となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ7億8千4百万円増加し255億7千4百万円となりました。流動資産は9億3千9百万円増の140億8千4百万円、固定資産は1億5千4百万円減の114億9千万円となりました。これは主に事業の閑繁等の季節的要因に伴いたな卸資産が11億4千4百万円増加したことによるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債の合計は、前連結会計年度末に比べ7億8千1百万円増加し142億7千3百万円となりました。流動負債は18億6千万円増の110億円、固定負債は10億7千9百万円減の32億7千3百万円となりました。これは主に短期借入金が増加したこと、1年内返済予定の長期借入金が増加したこと、長期借入金が増加したことによるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産の合計は、前連結会計年度末に比べ3百万円増加し、113億1百万円となりました。これは主に利益剰余金が増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年3月期の業績予想につきましては、2019年4月26日発表の「2019年3月期決算短信」で公表しました業績予想から変更はございません。

今後、業績予想数値に修正が生じる場合は、速やかに公表いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月20日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月20日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,997,652	2,811,412
受取手形及び売掛金	5,052,107	4,741,054
商品及び製品	1,938,170	2,472,638
仕掛品	1,347,355	1,737,452
原材料及び貯蔵品	1,645,691	1,865,392
その他	193,521	472,527
貸倒引当金	△29,203	△15,960
流動資産合計	13,145,294	14,084,517
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,372,596	2,325,010
機械装置及び運搬具(純額)	434,118	415,031
土地	3,523,229	3,523,229
その他(純額)	633,870	625,384
有形固定資産合計	6,963,814	6,888,655
無形固定資産		
のれん	1,470,224	1,396,143
その他	602,828	611,932
無形固定資産合計	2,073,053	2,008,076
投資その他の資産	2,607,702	2,593,582
固定資産合計	11,644,571	11,490,314
資産合計	24,789,865	25,574,832

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2019年3月20日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月20日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,007,417	1,433,618
短期借入金	2,905,000	3,555,000
1年内返済予定の長期借入金	629,086	1,596,226
未払金	3,348,151	3,492,361
未払法人税等	377,386	67,486
引当金	534,140	318,010
その他	338,276	537,625
流動負債合計	9,139,457	11,000,329
固定負債		
長期借入金	3,435,260	2,286,266
退職給付に係る負債	168,592	173,695
その他	748,945	813,484
固定負債合計	4,352,798	3,273,445
負債合計	13,492,255	14,273,774
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,373,552	3,373,552
資本剰余金	2,951,143	2,951,143
利益剰余金	5,022,867	5,037,835
自己株式	△510,457	△510,457
株主資本合計	10,837,106	10,852,074
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	317,216	313,616
繰延ヘッジ損益	4,378	△1,538
為替換算調整勘定	20,380	25,649
退職給付に係る調整累計額	118,528	111,255
その他の包括利益累計額合計	460,503	448,983
純資産合計	11,297,610	11,301,057
負債純資産合計	24,789,865	25,574,832

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年3月21日 至 2018年6月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年3月21日 至 2019年6月20日)
売上高	4,754,258	5,180,549
売上原価	3,080,119	3,297,694
売上総利益	1,674,138	1,882,854
販売費及び一般管理費	1,361,784	1,622,606
営業利益	312,353	260,248
営業外収益		
受取配当金	4,769	6,678
その他	30,231	17,275
営業外収益合計	35,001	23,953
営業外費用		
支払利息	15,941	15,112
その他	4,374	5,473
営業外費用合計	20,315	20,585
経常利益	327,039	263,616
特別利益		
投資有価証券売却益	—	6,081
特別利益合計	—	6,081
特別損失		
固定資産除売却損	270	0
ゴルフ会員権評価損	—	540
貸倒引当金繰入額	—	2,230
特別損失合計	270	2,770
税金等調整前四半期純利益	326,768	266,928
法人税、住民税及び事業税	58,960	60,082
法人税等調整額	82,308	75,868
法人税等合計	141,268	135,951
四半期純利益	185,499	130,977
親会社株主に帰属する四半期純利益	185,499	130,977



(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年3月21日 至 2018年6月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年3月21日 至 2019年6月20日)
四半期純利益	185,499	130,977
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△26,242	△3,600
繰延ヘッジ損益	15,658	△5,916
為替換算調整勘定	△94,950	5,269
退職給付に係る調整額	8,013	△7,272
その他の包括利益合計	△97,520	△11,520
四半期包括利益	87,979	119,456
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	87,979	119,456

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報)

Ⅰ 前第1四半期連結累計期間(自 2018年3月21日 至 2018年6月20日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	モビリティ& サービス事業	ライフ& サポート事業	住設機器事業	その他の事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	3,590,978	759,001	346,473	57,805	4,754,258	—	4,754,258
セグメント間の内部 売上高又は振替高	21,615	125,021	13	36,055	182,705	△182,705	—
計	3,612,594	884,022	346,486	93,860	4,936,963	△182,705	4,754,258
セグメント利益又は損失 (△)	572,780	12,007	△20,851	26,790	590,726	△278,372	312,353

(注)1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△278,372千円には、セグメント間取引消去4,230千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△282,603千円が含まれています。全社費用は、主に報告セグメントに帰属していない四半期連結財務諸表提出会社の費用です。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 2019年3月21日 至 2019年6月20日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	モビリティ& サービス事業	ライフ& サポート事業	住設機器事業	その他の事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	3,782,410	1,014,407	320,054	63,676	5,180,549	—	5,180,549
セグメント間の内部 売上高又は振替高	10,712	135,161	—	36,566	182,440	△182,440	—
計	3,793,122	1,149,569	320,054	100,243	5,362,990	△182,440	5,180,549
セグメント利益又は損失 (△)	648,895	1,103	△59,076	26,890	617,812	△357,564	260,248

(注)1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△357,564千円には、セグメント間取引消去4,352千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△361,916千円が含まれています。全社費用は、主に報告セグメントに帰属していない四半期連結財務諸表提出会社の費用です。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分方法を変更しております。

従来、報告セグメントとして開示しておりました「オート機器事業」と「情報機器事業」については、統合することによりコスト競争力、商品開発力及び提案力の強化を図り、モビリティ社会を支える事業とするため、セグメントの名称を「モビリティ&サービス事業」に変更しております。

また、「生活機器事業」については、調理家電から食品工場向けの食品加工機械まで事業拡張を図るため、名称を「ライフ&サポート事業」に変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。